要　約

急増しているママチャリ事故の現状を知るために、アンケート調査を行い、257 部を回収しました。回答者のうち、61%が事故（未遂を含む）を経験しており、212 件の事故事例が得られました。このうち 46%(98 件)の事故事例で子供がケガをし、そのうち 38%が医療機関を受診していました。事故事例を詳細に検討し、以下のことがわかりました。

１．頭を保護する必要

ケガをする部位は「頭・顔」が 67%で最も多く、受診率も 51%とケガが重い傾向にありました。ヘルメットをかぶって頭部を保護しましょう。

２．前に乗せたら停車時転倒に注意

・事故にあった子どもの年齢は 2 歳が最も多く、次いで１、３、４歳の順でした。
・事故の 8 割は転倒によるもので、特に停車時の転倒が多くありました。
・1 歳、2 歳の幼い子供は事故にあいやすく、前に乗る子供は停車時転倒の際にケガをする割合が高くなっていました。
・事故原因は、停車時転倒では運転者の不注意であると考える回答者が多かったので、前輪ロックをつけ、「子供は荷物より後に乗せ最初に降ろす」などの防止策を実行しましょう。

３．後ろに乗せたら走行時転倒と巻き込み事故に注意

・子供(主に 3 歳以上)を後ろに乗せる時は、走行時転倒が多くなっていました。
・走行時転倒の事故原因は、道路環境がトップ。無理をせず、段差などは降りて押すなどで防止しましょう。
・巻き込み事故は、「足」にケガの部位が集中しケガが重い傾向にあるので、後ろ乗せ補助イスには、必ず足載せと足カバーをつけ、巻き込み事故を防止しましょう。

４．朝夕は走行時転倒に、午前中から昼は停車時転倒に注意

・走行時転倒の多い朝夕は、余裕を持って移動するようにし、午前中から昼にかけては停車時転倒を防止する対策を立てましょう。

以上の結果から、事故予防を親だけでなく社会の任務ととらえ、次のような多方面からの対策が必要だと考えられます。

・子供へのヘルメット着用義務化と使いやすい製品の開発
・両親学級、乳幼児健診への交通安全教育の導入など、情報周知と注意喚起
・実情に合った、法の柔軟な対応
・子育て支援（過積載や複数乗せを無くすためのシステムづくり）
・道路や駐輪場の整備
・安全優先で転倒を考慮に入れた自転車・補助イスの開発
・販売店での安全に関する情報提供

今後、私たちのグループでも、ママチャリ利用者向け啓発リーフレットの作成など、できるところから事故防止活動をしていく予定です。